

コロナ下における子どもの貧困 と教育の課題



新型コロナウイルス感染症の広がりの中で、私たちの社会は経験したことのない変動の中に置かれています。特に大きな影響を受けているのは、相対的貧困の中にいる子どもたちです。雇用や所得はいっそう不安定化しており、少なからず学校が担っていたセーフティネットも休校によって縮小しています。感染症禍は、これまでの社会が抱えていた諸矛盾を強化しながら、最も脆弱な子どもたちを直撃しています。

この学習会では、貧困世帯の子どもの学習・生活支援事業を手掛けてきた白鳥勲さんをお招きし、支援ニーズの急増と感染防止の狭間にある現場からリアルな実情を報告していただくとともに、社会や行政、そして教育にどのような課題が突きつけられているのかを考えます。

教職を目指す学生を想定したイベントですが、幅広く市民にも公開します。今この問題をともに考えることで、コロナ後のより良い世界を構想する一歩をともに踏み出しましょう。

2020年6月13日(土) 13:00～15:00

Zoom によるオンライン講演会

講師 白鳥 勲 さん

(一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク代表理事)

埼玉県の公立高校教師として教師生活のほとんどをいわゆる「困難校」や定時制で過ごし、「貧困、非行問題行動、いじめ、不登校、低学力」など多くの困難を抱える子どもたちと歩み続けた実践家。現在は生活保護家庭を訪問し、信頼関係を築きながら中学生を対象に高校進学を助けるための週1～3回の教室を開いてきた「アスポート」の代表を務める。「クローズアップ現代—貧しくて学べない (NHK)」・「NNN ドキュメント 奇跡のきょうしつ (日本テレビ)」などに出演。



参加を希望される方は、以下の申し込みフォームに必要事項を記入して下さい。
当日の参加に必要なURLを送信します。(Zoom 未経験者にはマニュアルを送ります)

<https://ux.nu/IDeV1>



大東文化大学教職課程センターでは、毎年、教員志望学生のために「教員養成コロキウム」という学習会を主催し、地域・市民と共同で学んでいます。

“コロキウム”とは、ラテン語のコル(一緒に)とロキウム(話す)に語源を持つ単語で、「人と人との対話を大切にする学びの場」を意味します。

本件に関するお問い合わせ
大東文化大学 教職課程センター (担当: 仲田)

[knakata\[at\]ic.daito.ac.jp](mailto:knakata[at]ic.daito.ac.jp) ※[AT]を@に変えてください。